

原著〔実践研究〕

中学校のコーディネーション委員会のコンサルテーション および相互コンサルテーション機能の研究

— 参加教師の体験から —

家 近 早 苗* 石 隈 利 紀**

本研究の目的は、生徒への心理教育的援助サービスに関するコーディネーション委員会におけるコンサルテーション機能および相互コンサルテーション機能を検討することであった。A中学校での3年間のコーディネーション委員会に継続的に参加した8名の教師を対象に、参加した理由やメリットなどについて半構造化面接を行った。半構造化面接の結果を分析したところ、スクールカウンセラーによるコンサルテーションを通して、教師は生徒への援助サービスに関して、知識やスキルについてのアドバイス、安心・自信、新たな視点を得るとともに、学年間や教師同士のつながりが促進されたことが示唆された。そして参加者による相互コンサルテーションでは、援助サービスに関して、同僚からの受け入れと時間と場の共有が可能になったとともに、さらに教師の生徒の問題に関する当事者意識が高まったことが示唆された。

キーワード：学校心理学，コーディネーション委員会，コンサルテーション，相互コンサルテーション，中学校

問題と目的

現在、学校では、スクールカウンセラー（以下、SCと略記する）をはじめとする教師と異なる専門性や役割をもつ人たちが配置され、教師と共に子どもへの援助を進めている。また、子どもへの援助を、学校内や教師のみに限定するのではなく、学校外にある適応指導教室、教育センターや児童相談所などの援助資源も十分に活用しながらの連携・協働が強調されている。しかし現実的には、子どもの援助は担任教師などの個人の力量に負うところが多く、子どもの援助ニーズに十分に応えられていないのではないだろうか。そこには、教師の多忙さ、子どもの援助ニーズの多様性などの背景も考えられるが、一方で、学校や教師は、他機関や教師以外の専門性をもつ援助者と連携や協働するために具体的に何をしたらよいか分からないということも理由の一つであると考えられる。

学校は、すべての子どもに対してトータルな援助サービスを行う機関であり、豊かな援助資源を持っている（石隈, 1999）。学校における子どもへの援助は、授業、休み時間、給食、清掃、部活動や放課後などの時

間や場面を通して継続的に行うことができる。また学校には、校長などの管理職、養護教諭、教科担任、学級担任、部活動顧問に加え、SCなどの相談を行う人的な資源や、生徒指導委員会や教育相談委員会などの校務分掌上に位置づけられた組織などの資源が多様にある。

西山（2003）は、学校教育相談の視点から援助方法について検討し、職務としての役割分担や研修システムを含む学校の全体像から見た総合的なシステムづくりについて言及し、淵上（2004）は、学校組織を視野に入れた協同関係を促進するためのコーディネーション行動や、教師間において効果的な協同関係を生み出すための人間関係的要因や組織的要因を明らかにする必要性について指摘している。また、水野（2004）も、教師の連携や協働に対する促進要因や阻害要因について明らかにすることと、これらの実践の記録を積み上げることを今後の課題として挙げている。これらは、教師間の協力や協働によって援助サービスの向上を目指すものである。

一方、組織的な資源の活用について石隈（1999）は、子どもの援助者がチームを組んで援助を行うチーム援助だけでなく、学校組織もまたチームとして位置づけている。そして、子どもの援助サービスを充実させる

* 聖徳大学人文学部児童学科

** 筑波大学大学院人間総合科学研究科

システムについて、①学校全体のシステムを支える運営委員会、②学校の心理教育的援助サービスを充実させるコーディネーション委員会(例;校内支援委員会)、③特定の子どもに対するチームという3種類の援助に整理している。3種類の援助システムのうち特定の子どもへの援助システムであるチーム援助について田村・石隈(2003)は、不登校児童生徒の事例を検討することによってコア援助チームを提案し、保護者の援助ニーズにより、援助チームを①典型的なコア援助チームのタイプ、②保護者が単発的に参加するタイプ、③保護者の参加が最も少ないタイプ、④保護者のカウンセリングニーズが高いタイプの4つのタイプに分類している。その中で、コンサルタントとコンサルティの援助関係が一方からのものではなく双方向のものである相互コンサルテーションが強調されている。コンサルテーションは、コンサルティが自分のクライアントに対し具体的かつより効果的に対処できるように支援することであり、コンサルタントは、コンサルティの処理能力を高めるために、①理解の欠如、②技術の欠如、③客観性の欠如を補う(Caplan, 1964)。一方、相互コンサルテーションは、異なった専門性や役割を持つ者同士が、各々の専門性に基づき、子どもの状況について検討し、今後の援助方針を話し合う作戦会議(石隈, 1999)のことである。そこでは、コンサルタントとコンサルティが常に固定された関係を持つものではなく、例えば、学級に関わる問題に関して援助を行う時に必要な学級経営に関する知識や経験については教師がその専門性に基づいたコンサルタントであり、心理面や健康面に関してはSCや養護教諭がコンサルタントとしての役割をとるという関係が生じる。

また、3種類の援助システムの間位置するコーディネーション委員会の機能について家近・石隈(2003)は、中学校におけるコーディネーション委員会の事例解決過程を分析する中から、①異なる専門性を持つSCや教師等が協力しあいながら問題解決を行うコンサルテーションおよび相互コンサルテーション機能、②学校全体としての取り組みとして、生徒に対する効果的な援助や情報の提供を行う、学校・学年レベルの連絡・調整機能、③共有された援助方針をそれぞれの援助チームに伝えるチーム援助の促進機能、④管理職が参加することによって、校長の意思伝達や教職員との連携が図られることによる、リーダーシップの促進機能を見いだしている。

このような委員会を活用することによって、校内に援助サービスのシステムを整備することができ、学校

全体の援助サービスの向上につながるのではないかと考えられる。しかし、これまでにコーディネーション委員会が援助サービスの向上にどのような影響を与えるのかという視点や知見を提供する研究は少ない。

本研究で対象としたA中学校は、学校の「荒れ」という状況への対応策の一つとして、教育相談部会を拡大した形でコーディネーション委員会を設置し、学校が抱える問題に対して様々な話し合いを行いながら対応を続けたものである。(詳細は家近・石隈, 2003)

本研究の目的は、A中学校のコーディネーション委員会に参加した教師がその体験をどう受け止めたかを明らかにすることにより、コーディネーション委員会のコンサルテーション機能および相互コンサルテーション機能について検討することである。具体的には、教師のコーディネーション委員会への参加理由、参加への抵抗や負担、参加したことによる変容、さらに参加者がSCからの働きかけと参加者相互の働きかけをどう受け止めたかに焦点をあてる。

コーディネーション委員会の実際

1 目的と形態

A中学校のコーディネーション委員会は教育相談部会を拡大した形で存在し、定期的に行われている。一時的に結成される援助チームではなく、継続的、恒常的に機能する委員会(山本, 1986)である。コーディネーション委員会は教育相談部会を中心にして、管理職、教務主任、生徒指導主任が参加している。教育相談部長は、コーディネーション委員会の進行役で準備と運営、職員会議での報告などを行う。また、生徒指導主任は生徒指導委員会や外部機関からの情報提供や連携を中心に行う。さらにA中学校には相談員がおり、メンバーになっている。その特徴としては、1ヶ月に1回、継続的に行われること、困っている教師は誰でも自由に参加できることが挙げられる。

2 コーディネーション委員会の実施回数および時間

コーディネーション委員会の実施回数および時間は以下のとおりである。

199X年度 7回(その他に全体研修会1回)

199X+1年度 7回

199X+2年度 7回

月1回程度 午後2時～4時30分(約2時間30分)

3 コーディネーション委員会の進行(プロセス)

コーディネーション委員会の話し合いの進行は教育相談部長がつとめる。話し合いの進行について、以下のステップで説明する。

ステップ1 各学年の教育相談部員(またはその代理の教師)による生徒の状況の報告:簡単な質疑応答があり,学校全体の生徒の状況を把握することが目指される。約30分程度があてられる。

ステップ2 当該事例の報告:話し合いには,問題を抱えて困っていたり,特に気になる生徒がいる教師(例:学級担任,教科担任)が参加し,事例について報告する。具体的に生徒の苦戦と教師の苦戦が,参加者に共有される。

ステップ3 当該事例に関するアセスメント:当該事例に関して,質疑応答をしながら参加者全員が情報を出し合う。学級での様子,授業での様子,保健室での様子,保護者からの聞き取りによる家庭での様子などが情報として出てくる。そして生徒と教師の問題状況について,整理する。

ステップ4 当該事例についての援助方針の検討と決定:事例に関してよりよい対応や解決の方策について検討する。コーディネーション委員会における話し合いでは,コンサルタントとコンサルティの関係が常に固定されたものではなく,その都度,参加者がコンサルタントになったり,コンサルティになる。つまり話

し合いは,相互コンサルテーションの場となる。家近・石隈(2003)が分析した5つの事例(TABLE 1)でのコンサルテーションは,事例1ではSCと生徒指導主任が相談員へ,事例2では参加者全員が教育相談部員へ,事例3ではSCと校長が生徒指導主任へ,事例4では養護教諭,相談員が担任教師へ,事例5ではSCが担任教師,校長への主なコンサルタントになっていた。事例の内容によって,参加者全員がその役割に応じてコンサルタントとコンサルティの役割を取る。

コーディネーション委員会の話し合いには,生徒指導主任,学年主任,そして管理職が参加しており,事例への対応について,その場で決定される。そして,決定されたことは,学年主任等を通して関係する教員等(必要に応じて外部機関の援助者)に連絡される。

研 究

1 方法

(1) 調査対象

A中学校のコーディネーション委員会に199X年～199X年+2年で参加した18名のうち,2年以上継続して参加した教師8名。

TABLE 1 コーディネーション委員会におけるコンサルテーション関係

	問題状況	アセスメント	援助	コンサルティ	主なコンサルタント
事例1	①生徒が相談員の指示を受け付けない ②相談室が機能しない	①相談員が着任したばかりである ②学校や教師の相談室への理解が不十分である	①相談室利用のルールを決める ②全校朝会で決めたルールを生徒に確認する	相談員	SC 生徒指導主任
事例2	①教卓の上にゴミ箱が置かれる	①特定の教師に対する行為である ②特定の学年,クラスで起こっている ③他のクラスの生徒もおもしろがって加わっている	①該当学年教師による休み時間等の学年の状況把握の強化 ②担任教師によるクラスの生徒の状況の把握	教育相談部員	全員
事例3	①一部生徒による卒業式等の行事の妨害および混乱が予想される	①2名の生徒を中心に特定の生徒が卒業行事についての妨害を計画している ②2名の生徒は卒業式に刺繍入りの学生服を着て出席しようとしている	①周囲の生徒への協力の呼びかけ ②2名の生徒への関わりを強める ③当日の混乱を予想した具体的な対応と役割分担の確認	生徒指導主任	SC 校長
事例4	①2名の女子による性非行の問題 ②メル友との関係が心配される ③怠学傾向がある	①家庭の協力が得られない ②学級内では友人がいない ③相談室や保健室に行くことが多い ④担任教師は男性であり性的な問題にどう関わって良いか迷っている	①養護教諭が身体的な部分や性的な部分については関わる ②相談員との関わりを続けながら,登校させ,学校との関わりを断たない	担任教師(困っている教師)	養護教諭 相談員
事例5	①2名の生徒が逮捕され,鑑別所に入っている ②具体的な対応と今後の方針についての決定が必要である	①家庭との協力体制がとりにくい ②3週間程度鑑別所に入ることが予想される ③2名に対する措置の方向や対応に対する学校や担任教師の不安がある	①学校として可能な対応について準備し,方針を明確にする ②2名への直接的な関わり(面会等)を強め,立ち直りの機会と捉えて進める	担任教師(教育相談部員)校長	SC

(2) 日程

2001年7月～8月, 11月

(質問1～4については7～8月に実施し, 質問5, 6については11月に実施した。)

(3) 手続き

コーディネーション委員会が教師に対してどのようなコンサルテーション機能を持っているかについて検討するために, 教師にコーディネーション委員会での得たメリットと委員会参加による変容についての質問(問3, 問4)を設定した。またコンサルテーション機能に関連すると考えられる, コーディネーション委員会に参加した理由と抵抗についての質問(問1, 問2)と, SCおよび同僚の働きかけについて(問5, 問6)を用意した。下記の質問事項に沿って質問1～4については一人30分程度, 質問5, 6については一人15分程度の半構造化面接を進めた。

問1. コーディネーション委員会に参加した理由は何ですか。

問2. コーディネーション委員会への参加に対する負

担感や, コンサルタントに対する抵抗感がありますか。

問3. コーディネーション委員会に参加したことでのメリットは何ですか。

問4. コーディネーション委員会に参加することで, 何か変化したことはありますか。

問5. SCから先生方への働きかけで特に印象に残っていることは何ですか。

問6. 参加者の意見や言葉などの中で役に立ったことは何ですか。

(4) 分析の方法

問1と問2に関しては, 参加者ごとに整理した。そして問3～問6については, KJ法を活用しながらコンサルテーションの概念を参考に, 類似している回答を分類した。回答のまとめは, 学校心理学の研究者, 福祉の専門家, 心理学専攻の大学院生の協力を得た。

2 結果と考察

問1と問2の代表的な回答はTABLE 2, 問3と問4の代表的な回答はTABLE 3, 問5と問6の代表的な回

TABLE 2 参加への負担感, 抵抗感

職員	問1: コーディネーション委員会に参加した理由は何ですか。	問2: コーディネーション委員会への参加に対する負担感や, コンサルタントに対する抵抗感がありますか。	
		負担感	抵抗感
教頭	・学校としての対応策の必要性 ・情報の収集や指導の流れが把握できるので	・ない	・ない
教務主任	・学校としての対応策の必要性 ・具体的な指導を得たい	・ない	・ない
生徒指導主任	・校長命令 ・生徒の問題行動が多かったので	・授業がある場合, 若干負担があった	・だいたいぶかなあ, 面倒くさいなあと思っていた ・授業に出られない心配 ・それまでに受けた研修会は実になるものがなかったこと
教育相談部長	・新しい情報が得られる ・校長の意志で参加した	・ない	・抵抗感はあった ・自分たちとSCとがかみ合わないのではないか
教育相談部員	・教育相談部員だから ・部員になったのは, 以前教育相談をやったことがあって, 興味があったから	・なかった	・最初は期待も何も持っていなかった ・出席することで, 他の仕事をする時間がなくなる
学年主任	・専門家の存在(最初に参加して, コンサルタントの話が的確だった)	・授業を補欠(補講)にして出る場合は辛い ・授業とか清掃指導とかが手薄になること ・情報をうまく伝えられるかどうか ・事前に情報収集して資料を用意すること	・特にない
養護教諭	・生徒指導委員会に出席する先生以外にも出席する先生がいたこと ・コンサルタントのアドバイスをしてほしかったことが一番の理由	・なかった	・ない
相談員	・校長から声をかけてもらった ・生徒の理解, 対応を専門家から聞いたかった	・ない	・ない

TABLE 3 参加のメリットと教師の変化

問3：コーディネーション委員会に参加したことでメリットは何ですか。	問4：コーディネーション委員会に参加することで何か変化したことはありますか。
<p>a. 生徒への接し方 《生徒の観察》</p> <p>① ・自分が生徒と接する時に、コーディネーション委員会の話を元に、言葉かけを少し変えてみる、子どもの仕草や表情の見るべきポイントを自分なりに明確にしてみる。(教育)</p> <p>② ・何となく生徒の機嫌が悪そうだと見るのではなく、その時の生徒の表情や口調を観察するようになった。(教育)</p> <p>③ ・生徒の反応を予想したり、いくつかのパターンを想定して自分が行動するようになった。(教育)</p> <p>《自分の行動》</p> <p>④ ・目的を持って生徒に接触することが多くなった。(教育)</p> <p>⑤ ・生徒に接するときに自分が子どもの状況や状態を理解して授業を進めることができたことは授業に影響があった。それらの情報をうまく利用することができた。前もって情報を得ることができたので授業に生かすことができる。(相談)</p> <p>⑥ ・一歩、落ち着いた目で、対応ができるかなと、自分の姿勢を少し変えさせられた。(教務)</p>	<p>a. 生徒への接し方</p> <p>① ・子どもに対する指導の仕方、幅、工夫について自分で考えるようになった。(生徒)</p> <p>② ・方法、やり方を工夫するようになった。(養教)</p> <p>③ ・もっと深く関わらなければいけないと思うようになった。(学年)</p> <p>④ ・生徒や生徒の問題を放つたらかしにしていけないと思うようになった。(養教)</p> <p>⑤ ・直接、子どもに関わらなくちゃいけないと思うようになった。(学年)</p> <p>⑥ ・なぜ、子どもがそう行動し、親がそうするしかないことも理解して接するようになった。(教務)</p>
<p>b. 意欲の獲得</p> <p>⑦ ・やってみようという気持ち、このまま耐えようというような気持ちになれたと思う。(相談)</p> <p>⑧ ・コーディネーション委員会の中から得たヒントによって自分でも子どもにこうしてみようとか、具体策が自分の中に作られ、実際に自分でやってみるといことが多くなった。(教育)</p> <p>⑨ ・これから、自分の経験と、コーディネーション委員会でのことを合わせて、自分より若い先生に対しても広げていくことがしたいし、できている。(教育)</p> <p>⑩ ・自信を持って生徒に接することができた。(養教)</p> <p>⑪ ・例えば、非行の子どもに対しても、問題が起きたときに、コーディネーション委員会に参加して、やってみようという感じがする。(相談)</p>	<p>b. 自己修正</p> <p>⑦ ・コーディネーション委員会を通してSCから違った視点を与えられることで、自分はこれでよかれと思ってやっていたけれど、自分のやり方を一歩引いてみてみれば、何だか、まだまだ穴があるぞとか、子どものためになってないぞとか、子どもは態度や表情に表さないだけで、こっちのやり方はまだまだ伝わってないぞという気持ちになった。(教育)</p> <p>⑧ ・今までは、今まで流のやり方でやってきたけど、いや、ちょっと待てよと思うことがあって、今までのやり方は、良さもあるけれどデメリットもあると思うようになった。(教育)</p> <p>⑨ ・自分のやり方に対して反省し、意識する場面がものすごく増えた。(教育)</p> <p>⑩ ・自分のやっていたやり方の空いていた穴を埋める作業を進めたと思う。(教育)</p> <p>⑪ ・非行の生徒に対し、自分はひいてしまうんだけど、反省する。(学年)</p> <p>⑫ ・ああ、やっぱり、それじゃまずいな、という考えに、コーディネーション委員会に出ると思う。(学年)</p>
<p>c. 知識や視点の獲得</p> <p>⑫ ・助言が得られたり、具体的な知識が得られた。(部員)</p> <p>⑬ ・自分でわからないことがわかるようになった。(生徒)</p> <p>⑭ ・知識や、今までの自分のやり方と違うことを得ることができた。(部員)</p> <p>⑮ ・違った意見がきけて、違う方向性が見えてきた。(部員)</p> <p>⑯ ・教員の中だけではない話が聞ける。(部員)</p> <p>⑰ ・生徒に対して自分たちとは違った観点から見てもらって、自信を持って生徒に接することができた。(養教)</p>	<p>c. 自信・安心</p> <p>⑬ ・SCから出される話の中から自分でもやってみようと思うことがあった。(生徒)</p> <p>⑭ ・SCのアドバイスを受けて、何とかしなくちゃと思うようになった。(養教)</p> <p>⑮ ・コーディネーション委員会を通して、毎回、自分でやらなくちゃと思い直す。(養教)</p> <p>⑯ ・スペシャリスト(SC)が自分の後ろにいることで自信がつく。(養教)</p> <p>⑰ ・困ったことがあって、担任や校長に相談してそれでも解決しないときにはSCに相談しようと思ったSCという頼れる人がいることで安心して自分の行動を見つめられる。(養教)</p> <p>⑱ ・なにかあっても、SCがまた来てくれるという思いで安心する。(養教)</p> <p>⑲ ・全体としても、SCの存在から、教師が安心して指導しているように感じる。(教務)</p>
<p>d. 校内の変化</p> <p>⑱ ・他の学年の様子がわかったというのが良かった。(部員)</p> <p>⑲ ・直接担任が困っている様子が検討されるようなコーディネーション委員会があることによって、企画委員会、生徒指導委員会の関わりが変化していると感じている。(教頭)</p> <p>⑳ ・学校の中だと先生方の意識が違って来たように思う。(相談)</p> <p>㉑ ・継続して参加した人がもう一回やろうとか、良しっていう感じがする。特に、生徒指導主任と、教育相談部長の二人が大きく変化したと思う。(相談)</p>	<p>d. 視点</p> <p>⑳ ・材料を自分の中で消化して視点が増えた。(教育)</p> <p>㉑ ・コーディネーション委員会を通してSCから違った視点を与えられる。(教育)</p> <p>㉒ ・SCから与えられた視点があれば、自分の武器はもっと切れ味が良くなるのか、自分の持っている子どもを保護するマットはもっと厚く安全なものになるとか思った。(教育)</p> <p>㉓ ・(SCの)言葉の端はしに違った子どもの捉え方や、保護者への接し方を感じて、自分の子どもを見る目とか、保護者を見る目とか、そういう見方について今までよりもやや、違った角度、今ひとつ踏み込んだ捉え方をするようになった。(学年)</p> <p>㉔ ・子どもの捉え方、見方をSCの話聞いて、自分が指導することにおいて感じたことが多い。(学年)</p>
	<p>e. 仕事上の役割の明確化</p> <p>㉕ ・コーディネーション委員会には教育相談の担当の教師も参加しているし、問題をかかえたクラスの担任教師も出席しているので、生徒指導委員会とはかなり違うと思う。(教務)</p> <p>㉖ ・学級の教師がどうやっていこうか、教育相談の教師がどうしていこうかという部分が出てきていると思う。(教務)</p> <p>㉗ ・教師間のチームワークや、情報を早くすること、職員や生徒とコミュニケーションを取ること、(問題行動への)対処を早くすることなどを心がけるようになった。(生徒)</p> <p>㉘ ・徐々にみんなが一緒に動いてくれるようになっていた。(生徒)</p> <p>㉙ ・生徒が問題を起こしている現場に行き、ふと見ると周りに教師が集まってきていて、自分はその場で指示を出せばよくなっていった。(生徒)</p>

注) 生徒指導主任 (生徒), 教育相談部長 (教育), 教育相談部員 (部員), 学年主任 (学年), 養護教諭 (養教), 相談員 (相談) と略記する

答は TABLE 4 にまとめた。(なお TABLE 中の箇条書きは回答の表現のままである)

問1：コーディネーション委員会に参加した理由は何ですか。

参加理由は、生徒指導主任、教育相談部長、相談員の3名が①校長の働きかけや命令によって、教頭、教育相談部長、相談員の2名が②教育相談部員・教頭だから、教務主任が③学校全体の指導の必要性和、校務分掌上の役割によって参加したとしている。また、養護教諭と学年主任は④他の教師や SC (以下 SC と略記) の存在を挙げている。またさらなる参加理由としては、⑤新しい情報がほしい、⑥学校としての対応策の必要性、⑦専門家の存在を挙げている。

問2：コーディネーション委員会への参加に対する負担感や、コンサルタントに対する抵抗感がありますか。

コーディネーション委員会に参加する前に教師が持っていた抵抗感は、教育相談部員が、①出席することで他の仕事をする時間がなくなる、生徒指導主任と学年主任の2名が、②授業を補講にしなければならないこと、学年主任が、③資料づくりなどの準備の負担、④話し合いそのものの負担、生徒指導主任が、⑤それまでに受けた研修会は実になるものがなかったこと、教育相談部長が、⑥自分たちの意見と SC の考えが合み合わないのではないか、という回答だった。

問3：コーディネーション委員会に参加したことでのメリットは何ですか。

a. 生徒への接し方の変化

まず、「言葉かけを少し変える」(①)、「子どもの仕草や表情を見る」(①)、「生徒の表情や口調を観察する」(②)、「生徒の反応を予想したりいくつかのパターンを想定する」(③)という生徒の観察と、「目的を持って

TABLE 4 参加者からの働きかけ

問5：SCから先生方への働きかけで特に印象に残っていることは何ですか。	問6：参加者の意見や言葉などの中で役に立ったことは何ですか。
a. 知識やスキルについてのアドバイス ① ・具体的なアドバイスが得られる。(部員) ② ・学年や担任には具体的なアドバイスをもらえる。(教務) ③ ・自分ができそうなアドバイスを受けた。(生徒) ④ ・場面ごとに適切なアドバイスを受けた。日常の生徒との関わりの中で使える。(生徒) ⑤ ・実際の経験の話を書くことで、自分に当てはめて考えることができた。(教育) ⑥ ・データを示してくれた。(教育) ⑦ ・状況判断が的確で自分の中で理解しやすい。(学年)	a. 同僚からの受け入れ ① ・自分の愚痴を聞いてもらっているように感じ、それをみんなにストレートに話して、受け止めてもらった。(部員) ② ・自分だけでなく周囲の職員が頷いているのを見て、みんなも同じように苦労しているんだと感じ、連帯感みたいなものを持てた。(教育) ③ ・みんなで大変だという思いを分けられた。(部員) ④ ・困っていることをみんなに伝えられていることが良かったし、みんなが真剣に考えていると感じた。(生徒) ⑤ ・おまえの責任だといわれることはなくみんなで考えていると感じた。(生徒)
b. 安心 ⑧ ・教職員の心のケアがされる。(部員) ⑨ ・できないことはできないんだというメッセージをもらうことで肩の荷が下りる。(教育) ⑩ ・教師がすぐに効果を求めることは意味がないと気付いた。長い目で見ていくことに気付き自分の焦りが押さえられた。自分でもやってみて安心した。(部員) ⑪ ・解決の糸口が見えて心にゆとりができる。(生徒)	b. 時間と場の共有 ⑥ ・それぞれの立場からの情報が、担任の欠点や足りないことをつくのではなく、子どもの問題状況を考えている。職員室では教師に余裕ができていく。(教頭) ⑦ ・子どものことを話し合える時間が少ないことを補えた。(部員) ⑧ ・校内で情報交換する場が少ないのでそういう場があることがうれしい。学校がうまくいかなくとみんな逃げ場がなくなるし、歯車がかみ合わなくなるから時間がとれることがうれしい。(養教) ⑨ ・学年を越えてやることができた。(部員) ⑩ ・進んでその場に行きやる方向になったこと。(部員) ⑪ ・自分が接していて困っている生徒に対して悪い面ばかりを見てしまう。それを話すことで、整理したり、こうしようとか振り返ることができる。(相談)
c. 視点 ⑫ ・違う角度、方向からの指導があることに気付いた。(教務) ⑬ ・学校での保護者、生徒、教師の立場が固定されていて、自由な発想がとれないことを補ってくれた。教師の発想の修正と生徒、保護者の実像が見えるようにしてくれる。(教頭) ⑭ ・自分が煮詰まった状態から委員会で話すと、こういう見方があるといわれて、また考え直すことができる。(養教) ⑮ ・教師集団が自己修正するように働きかけられる。(教頭)	
d. 学年間や教師同士のつながり ⑯ ・有機的な教師のつながりができると感じる。(教育) ⑰ ・それまでは他の学年の先生と話がなかった。他の学年の問題にも自分が参加することができる。(教育)	

注) 生徒指導主任 (生徒), 教育相談部長 (教育), 教育相談部員 (部員), 学年主任 (学年), 養護教諭 (養教), 相談員 (相談) と略記する

接触する」(④),「子どもの状況を理解して授業を行う」(⑤),「自分の姿勢が変わった」(⑥)という自分の行動が変化したことが挙げられた。これらの回答を「生徒への接し方の変化」として分類した。

b. 意欲の向上

教師は、「やってみようという気持ち、このまま耐えようというような気持ちになれた」(⑦),「実際に自分でやってみる」(⑧),「自信を持って接する」(⑩)というように、生徒に接する時の自分の意欲を挙げている。また、「自分より若い先生に対しても広げたい」(⑨)というように将来を見据えた意欲も伺えた。これらの回答を「意欲の向上」として分類した。

c. 知識や視点の獲得

「知識や、自分のやり方と違うことを得た」(⑭),「具体的な知識が得られた」(⑯),「違った意見や方向性」(⑮)ということから、これらの回答を「知識と視点の獲得」として分類した。

d. 校内の変化

「他の学年の様子が分かった」(⑱),「企画委員会、生徒指導委員会の関わりが変化している」(⑲)という学校全体の連携に関わる変化と、「先生方の意識が違ってきた」(⑳),「生徒指導主任と、教育相談部長が変化した」(㉑)という教師の意識の変化が挙げられた。これらの回答を「校内の変化」として分類した。

問4: コーディネーション委員会に参加することで何か変化したことはありますか。

回答は以下のとおりであり、ネガティブな表現はなかった。

a. 生徒への接し方の変化

教師は、「指導の仕方、幅、工夫について自分で考えるようになった」(①),「方法、やり方を工夫するようになった」(②)という生徒と接する時の自分の指導の方法と、「もっと深く関わらなければいけないと思うようになった」(③),「直接、子どもに関わらなくちゃいけないと思うようになった」(⑤),「子どもや親の行動を理解して接するようになった」(⑥)という生徒の理解や接する時の自分の態度について変化したと回答している。これらの回答を「生徒への接し方の変化」として分類した。

b. 自己修正

「自分のやり方に対して反省し、意識する場面がものすごく増えた」(⑨),「非行の生徒に対し、自分はひいてしまうんだけど、反省する」(⑩),「やっぱり、それじゃまずいな、という考えになる」(⑫),「自分のやっていたやり方の空いていた穴を埋める作業を進めた」

(⑩)というように、教師はそれまでの自分を振り返り、自分のやり方について検討したと回答している。これらの回答を「自己修正」として分類した。

c. 自信・安心

教師は、「毎回、自分でやらなくちゃと思いつく」(⑮),「何とかしなくちゃと思うようになった」(⑲),「自分でもやってみようと思う」(⑳)というように、自分でやろうとする姿勢と、「自信がつく」(㉑),「教師が安心して指導している」(㉒),「なにかあっても、SCがまた来てくれるという思いで安心する」(㉓)というように、安心し、自信を持って指導することができるようになったことを挙げている。これらの回答を「自信・安心」として分類した。

d. 視点

「SCから違った視点を与えられる」(㉔),「材料を自分の中で消化して視点が増えた」(㉕),「SCから与えられた視点があれば、自分の武器はもっと切れ味が良くなる」(㉖),「今までよりもやや、違った角度、捉え方をするようになった」(㉗)というように、今までとは違った視点を持つようになったことを挙げている。これらの回答を「視点」として分類した。

e. 仕事上の役割の明確化

「学級の教師や教育相談の教師がどうしていいか考える」(㉘),「教師間のチームワーク、情報、職員や生徒とコミュニケーション、(問題行動への)対処を早くすることなどを心がけるようになった」(㉙),「みんなと一緒に動いてくれる」(㉚)というように、学級担任や教育相談の担当教師、教師間のチームワークなど校内の役割の明確になったことを挙げている。これらの回答を「仕事上の役割の明確化」として分類した。

問5: SCから先生方への働きかけで特に印象に残っていることは何ですか。

a. 知識やスキルについてのアドバイス

「具体的なアドバイス」(①,②),「自分ができそうなアドバイス」(③),「場面ごとのアドバイス」(④)「データを示す」(⑥)などのアドバイスを受けたと感じていることが分かった。これらの回答を、日常の生徒との関わりで使える「知識やスキルについてのアドバイス」の回答として分類した。

b. 安心

「教職員の心のケア」(⑦),「肩の荷が下りる」(⑧),「安心した」(⑨),「ゆとりができる」(⑩)というようにSCとの関わりから、教師は心のゆとりや安心を得ている。これらの回答を「安心」として分類した。

c. 視点

「違う角度，方向からの指導があることに気付いた」(①)，「自由な発想がとれないことを補ってくれた」(②)，「こういう見方があるといわれて，また考え直す」(③)，「教師集団が自己修正するように働きかけられる」というように，SCから自分たちとは違った視点を受けたことが挙げられた。これらの回答を「視点」として分類した。

d. 学年間や教師同士のつながり

「有機的な教師のつながりができる」(④)，「それまでは他の学年の先生と話しなかった」(⑤)，「他の学年の問題にも参加することができる」(⑥)ことから，SCの働きかけで，自分の所属する学年の生徒だけでなく，他の学年の生徒の状況を把握したり，他の学年の教師との連携がとれると回答している。これらの回答を「学年間や教師同士のつながり」として分類した。

問6：参加者の意見や言葉などの中で役に立ったことは何ですか。

a. 同僚からの受け入れ

「自分の愚痴を聞いてもらって，受け止めてもらった」(①)，「みんなも同じように苦労しているんだと感じ，連帯感みたいなものを持てた」(②)，「みんなで大変だという思いを分けられた」(③)，「みんなに伝えられることが良かったし，みんなが真剣に考えていると感じた」(④)「おまえの責任だといわれることはなくみんなで考えていると感じた」(⑤)というように，自分の困っていることや大変なことを，参加している同僚教師が，真剣に受け止めてくれていると回答している。これらの回答を「同僚からの受け入れ」として分類した。

b. 時間と場の共有

「校内で情報交換する場」(⑥)，「子どものことを話し合える時間が少ないことを補えた」(⑦)，「日常に話し合う時間や場が少ないことを補い，「学年を越えてできた」(⑧)，「進んでその場に行きやめる方向になった」(⑨)などのように，教師は，自分の学年だけではなく全体の協力について回答している。これらの回答を「時間と場の共有」として分類した。

総合考察

コーディネーション委員会に参加した教師の委員会への参加理由，参加への抵抗や負担，参加したことによる変容，参加者がSCからの働きかけと参加者相互の働きかけをどう受け止めたかということに焦点をあて，コーディネーション委員会のコンサルテーション

機能および相互コンサルテーション機能について考察したい。

A中学におけるコーディネーション委員会では，様々なコンサルタントとコンサルティの組み合わせで，コンサルティの問題解決が図られている(TABLE 1)。例えば，事例3では，生徒の問題行動の心理的な理解についてはSCが教師に対するコンサルタントになり，学校行事である卒業式に関しては校長がコンサルタントであった。また，事例4においては，養護教諭から身体面や疾病に関する知識の提供がなされ，心理面については，日常的な生徒との関わりを業務とする相談員から生徒理解の方法や違った視点が担任教師に与えられた。コーディネーション委員会では，事例によって各参加者がそれぞれの専門性を生かしたコンサルテーション，つまり，相互コンサルテーションが行われていたと考えられる。

参加の直接的なきっかけ(問1)は，生徒指導主任や教育相談部員であるというように校務分掌上の役割によるものが大半だった。また，参加理由からは，個々の教師は，学校の「荒れ」に対し対応策を考える必要性や，新しい情報，SCのアドバイスなど，教師自身の指導に生かせるものを得たいと考えていたことが理解できた。しかし，その一方で，参加への抵抗感や負担感(問2)について，参加教師の半数は，①授業に出られないことなどの時間的な問題，②話し合いそのものへの不安，③準備をすることの負担，④SCへの抵抗を感じていることが理解できた(TABLE 2)。

これらの回答からは，それぞれの教師は問題意識を持っているが，目の前で起こる問題への対応，時間的な余裕がないこと，教師の本来の業務である授業への負担からの抵抗であると推察できる。

このような参加教師の抵抗や不安，負担感を軽減した要因の一つに，無理のないコーディネーション委員会の設定が挙げられる。A中学校のコーディネーション委員会は，教育相談部会に新たなメンバーを加えることで拡大したものであった。学校の組織はそのままにして，組織を編成するメンバーを変えることと，外部のSCを入れることによって，校務分掌上の見かけ上は同じだが，話し合いの内容には変化が起こったと考えられる。そこには，学校長の役割権限や意志が働いたと考えられる。このような参加への抵抗感や負担感，コーディネーション委員会を作る際には十分に配慮すべき点である。

コーディネーション委員会に参加することのメリットについては(問3)，a. 生徒への接し方の変化，b.

意欲の獲得, c. 知識や視点の獲得, d. 校内の変化で捉えられた。また, 変化に関しては(問4), a. 生徒への接し方, b. 自己修正, c. 自信・安心, d. 視点, e. 仕事上の役割の明確化で整理できた。(TABLE 3) これらの参加によって得たメリットや変化として捉えられる参加者の体験を役割別にみる。問3のa, 問4のa. 生徒への接し方については, 教頭以外の全参加者が変わったと感じていた。直接生徒と関わる機会の多い教師ほど, 生徒の関わりに困難さを感じながら話し合いに参加していると考えられる。コーディネーション委員会に参加者と一緒に方針や対策を考える際, 教師は自分自身の生徒への接し方とを関連させながら, 進めている可能性が考えられる。また, 問4のc. 自信・安心についての回答は養護教諭のものが多く見られた。このことは, 参加した養護教諭が教職経験2年目であり, 経験が少ないこと, 養護教諭の仕事上の特質として, 保健室で一人で仕事をする人が多いことなどから不安感を持っていたものが, 参加することで軽減された可能性が示唆される。

コーディネーション委員会に参加することで, 教師は, ①知識, ②自信・安心, ③意欲の向上を獲得すること, また, ④自己修正をしながら, 自身の⑤生徒への接し方が変わると感じ, さらに⑥仕事上の役割の明確化が起こっていることが示唆される。そして, 個々の参加教師の変化は, 教師の変化であると同時に, 学校組織の機能にも何らかの変化を与えている可能性があるのではないかと考える。

そこで, SCの教師集団へのコンサルテーションと参加者同士による相互コンサルテーションに焦点をあ

てて考察する。

参加教師は, SCによるコンサルテーション(問5)によってa. 知識やスキルについてのアドバイス, b. 安心, c. 視点, d. 学年間や教師同士のつながりのうちのいくつかを得ていると感じていることが理解できた(TABLE 4)。これは, コミュニティ心理学(山本, 1986)や学校心理学(石隈, 1999)でいう, コンサルテーションで提供される①知識, ②安心, ③新しい視点, ④ネットワークの促進というコンサルテーションの機能と一致している。コーディネーション委員会において教師が求めるコンサルテーションは, 「具体的な」(問5-①, ②), 「自分ができそうな」(問5-③), 「日常の生徒との関わりで使える」(問5-④), 「データを示してくれた」(問5-⑥)というように, より具体的で, 教師自ら工夫し実践してみようと思えるものであることが推察できる。

次に, 参加者による相互コンサルテーション(問6)では, a. 同僚からの受け入れ, b. 時間と場の共有という2点が挙げられた(TABLE 4)。中学校教師にとって同僚からの批判は大きなストレスになることが指摘されている(田村・石隈, 2001)。コーディネーション委員会に参加することによって, 同僚の教師から理解され, 受け入れられていると感じることは, 教師の心理的負担を軽減する効果があると同時に, 自分子どもとの関わりについて同僚の批判を恐れずに表現が可能になると考えられる。また, この同僚からの受け入れは, 単に理解されたと感じることだけではない。「みんなが真剣に考えていると感じた」(問6-a-④), 「おまえの責任だといわれることはなくみんなで考えている」(問6-a-⑤)というように, 問題を提供した教師の責任を追及す

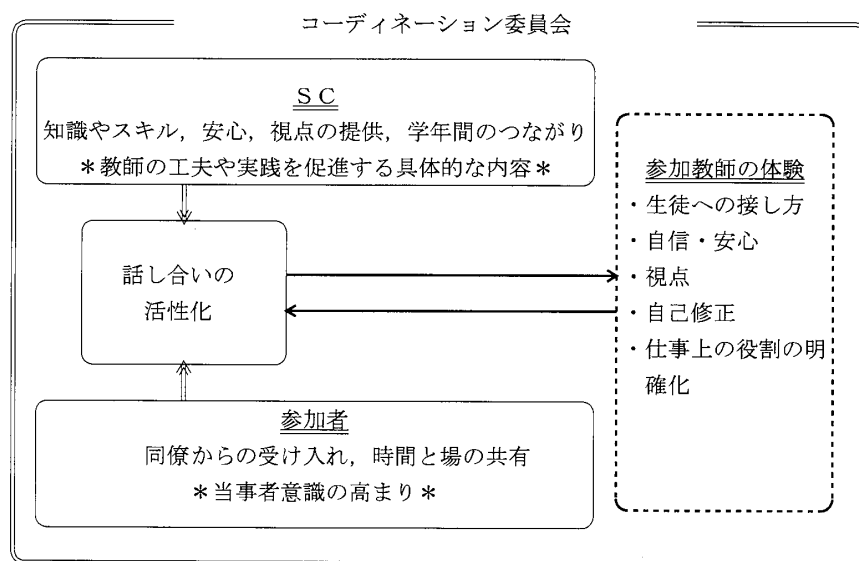


FIGURE 1 コーディネーション委員会のコンサルテーションおよび相互コンサルテーション機能

るのではなく、全員の問題として考えられたことが理解できる。つまり、同僚の受け入れは、同時に周囲に居る教師がその問題を他人事とはせず、自分や学校の問題であると捉えていると理解できる。これは、「問題に対する当事者意識の高まり」と考えられる。このような、コーディネーション委員会における同僚からの受け入れは、相互コンサルテーションにおいて生徒への関わりにおける問題解決を進めるうえでの基盤といえる。

またさらに、コーディネーション委員会が、教師同士の情報交換の時間や場の少なさを補うという点である。淵上 (1995) は、学校を構成する教師集団の特徴を「疎結合システム」であることを指摘している。「疎結合」とは、お互いに働きかけられればそれに応えるが、通常は個々の独立性と分離性が保たれている状況をいう。教師集団は、教師の専門性と独自性が尊重される反面、共通の場や理解を持つことが難しい集団である。教師の回答から得られたコーディネーション委員会における時間と場の共有は、このような困難さを補うものとして機能している可能性がある。

コーディネーション委員会で定期的に行われる相互コンサルテーションは、教師同士が子どもへの援助について共に考える場と時間を構造化するものであるといえる。1対1のコンサルテーションでは、コンサルタントとコンサルティの信頼関係のプロセスにおいて、コンサルタントがコンサルティを受容することが可能となる。また、コーディネーション委員会においては、教師に対するコンサルタントである SC の働きかけから安心や自信を獲得すると同時に、同僚教師による理解や受け入れがあり、コンサルテーション、相互コンサルテーションの基盤が強くなっていると考えられる。

以上のことから、相互コンサルテーションで教師相互における理解、教師相互で話し合う機会を獲得しながら参加者の当事者意識が高まること、SC のコンサルテーションによって、知識や具体的な方法を得ることの両者が同時に行えることが、コーディネーション委員会におけるコンサルテーション・相互コンサルテーションの機能かもしれない (FIGURE 1)。

本研究の限界と今後の課題

本研究は、調査対象の教師と一緒に実践を行っている SC が面接を行ったことによって、回答をする際に調査者に遠慮をするなどの影響があることで、コーディネーション委員会におけるコンサルテーション機能、相互コンサルテーション機能が過大評価されてい

る可能性があり、このことは、本研究の限界として挙げられる。

また、本研究では、コーディネーション委員会に参加することによる教師の体験をもとに、コーディネーション委員会の機能について検討してきた。しかし、今後の課題として考えられる点がいくつか挙げられる。まず、はじめに、コーディネーション委員会に参加した一人ひとりの教師の変化について時系列を追って明らかにすることである。本研究では、教師の変化のプロセスについては検討できなかった。つぎに、本研究では、相互コンサルテーションの視点から参加者からの働きかけに関する問いを設定したが、得られた回答は「同僚からの受け入れや理解」、「時間と場の共有」を提供されるというものであり、それぞれの教師が果たしたコンサルタントとしての役割についての回答は得られなかった。相互コンサルテーションの機能について論じる際には、コンサルタントがどのような役割を果たすかということが必要であると考えられ、今後の課題である。さらに、教師の回答からは、教師の変化が役割 (管理職、生徒指導主任、養護教諭等) によって影響を受けている可能性があるのではないかと思われたが、対象とした教師の数が少ないこともあり、役割との関連について明確に見いだすことができなかった。

これらの点については今後の課題であり、コーディネーション委員会の取り組みをしている様々な学校や教師を対象とした研究を行い、検討を続ける必要があると考える。

引用文献

- Caplan, G. 1964 *Principles of preventive psychology*. New York: Basic Books. (新福尚武(訳) 1970 予防精神医学 朝倉書店)
- 淵上克義 1995 学校が変わる心理学 ナカニシヤ出版
- 淵上克義 2004 教師間協同に関わるコーディネーション 学校連合資格「学校心理士」認定運営機構 企画・監修 北大路書房 Pp.101-111.
- 石隈利紀 1999 学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス— 誠信書房
- 家近早苗・石隈利紀 2003 中学校におけるコーディネーション委員会に関する研究—A 中学校の実践をとおして— 教育心理学研究 51, 230-238. (Iechika, S., & Ishikuma, T. 2003 A coordination committee for psychological and educa-

- tional services in a junior high school. *Japanese Journal of Educational Psychology*, **51**, 230-238.)
- 水野治久 2004 学校心理学に関する研究の動向を課題—援助サービス実践への知見を中心として— 教育心理学年報, **43**, 126-134.
- 西山久子 2003 わが国の最近1年間における教育心理学の研究動向と展望—日本の心理教育的援助サービスとしての学校心理学の実践と, そのシステム構築への貢献について— 教育心理学年報, **42**, 139-147.
- 田村節子・石隈利紀 2003 教師・保護者・スクールカウンセラーによるコア援助チームの形成と展開—援助者としての保護者に焦点をあてて— 教育心理学研究, **51**, 328-338. (Tamura, S., & Ishikuma, T. 2003 Forming a core team (teacher, school counselor, and parent) to support a student : Parents as supporters. *Japanese Journal of Educational Psychology*, **51**, 328-338.)
- 田村修一・石隈利紀 2001 指導・援助サービス上の悩みにおける中学校教師の悩みにおける中学校教師の被援助志向性に関する研究—バーンアウトとの関連に焦点をあてて— 教育心理学研究, **49**, 438-448. (Tamura, S., & Ishikuma, T. 2001 Help-seeking preferences and burnout : Junior high school teachers in Japan. *Japanese Journal of Educational Psychology*, **49**, 438-448.)
- 山本和郎 1986 コミュニティ心理学—地域臨床と実践— 東京大学出版会
(2004.9.10 受稿, '06.6.8 受理)

Consultation and Mutual Consultation in a Coordination Committee for Psychological and Educational Services in a Junior High School

SANAE IECHIKA (SEITOKU UNIVERSITY) AND TOSHINORI ISHIKUMA (INSTITUTE OF PSYCHOLOGY, UNIVERSITY OF TSUKUBA)
JAPANESE JOURNAL OF EDUCATIONAL PSYCHOLOGY, 2007, 55, 82-92

The purpose of the present study was to examine the functions of consultation and mutual consultation in a coordination committee for psychological and educational services in a junior high school, focusing on the teachers' experiences. A semi-structured interview covering reasons for and advantages of participating in the committee was conducted with the 8 teachers who regularly participated in the committee. Examination of the interview results suggested that as a result of their participation, the teachers received advice on knowledge and skills from the school counselor, regained confidence, and obtained new viewpoints relating to their psychological and educational services to the students. In addition, communication among teachers in a given grade was facilitated. It was also suggested that from mutual consultation, the teachers felt accepted, shared the time and place regarding their services, and in addition, could take students' issues as their own.

Key Words : school psychology, coordination committee, consultation, mutual consultation, junior high school